

Noism Company Niigata 2026 夏公演

## Noism0 + Noism1

# 『私は海をだきしめていたい』

## 改訂版 『春の祭典』

演出振付：金森穰



舞踊で紡ぐ、安吾とサティの精神世界

photo: Ryu Endo

同時上演、改訂版『春の祭典』

新潟公演 2026年6月27日（土）、28日（日）、7月4日（土）、5日（日）

りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館〈劇場〉

主催：公益財団法人新潟市芸術文化振興財団

共催：BSN 新潟放送、NST 新潟総合テレビ、TeNY テレビ新潟、UX 新潟テレビ 21（新潟公演）

製作：りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館

埼玉公演 2026年7月25日（土）、26日（日）

彩の国さいたま芸術劇場〈大ホール〉

主催：公益財団法人新潟市芸術文化振興財団 共催：公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団（埼玉公演）

### お問い合わせ

りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館

舞踊企画課：伊藤英行 Noism 制作担当：上杉晴香 広報担当：高橋和花

〒951-8132 新潟市中央区一番堀通町 3-2

TEL: 025-224-5627 (10:00-18:00 / 休館日除く) FAX: 025-224-5626 E-mail: info-noism@ryutopia.or.jp

Noism オフィシャルウェブサイト [www.noism.jp](http://www.noism.jp)  Noism  @NoismPR  noism\_official  NoismPR



りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館の専属舞踊団である Noism Company Niigata (ノイズム・カンパニー・ニイガタ) の 2026 年夏の公演は、金森穰演出振付の新作『私は海をだきしめていたい』と改訂版『春の祭典』を上演します。

新潟市出身の無頼派の作家・坂口安吾が生誕 120 年を迎える本年、安吾の短編『私は海をだきしめていたい』にインスピレーションを得て創作されます。

音楽は本年が生誕 160 年にあたる、安吾愛した作曲家エリック・サティのピアノ曲。

安吾とサティの共鳴する精神世界を、金森穰が舞踊詩として紡ぎます。

同時上演は、2020 年コロナ禍に初演した金森穰版『春の祭典』を Noism0 と Noism1 による少人数編成で、美術も削ぎ落として、お届けします。言いようのない不安や恐れ、そして苛立ちを抱える現代人の精神状態を、生身の人間にしか表現できない、集団ヒステリーの儀式として描き出します。



## ■ 公演概要

### 『私は海をだきしめていたい』

演出振付：金森穰  
音楽：エリック・サティ  
衣裳：井深麗奈  
出演：Noism0、Noism1

舞台監督：夏目雅也  
照明：伊藤雅一 (RYU)

### 改訂版『春の祭典』

演出振付：金森穰  
音楽：イーゴリ・ストラヴィンスキー  
衣裳：RATTA RATTARR  
椅子：須長檀  
出演：Noism0、Noism1

1, 2 枚目 photo: Ryu Endo  
3, 4 枚目『春の祭典』(2021) photo: Kishin Shinoyama

## ■公演によせて

Noism 国際活動部門芸術監督 井関佐和子

今回の公演は、私たちが生きる「今」という時間を、二つの異なる身体の在り方から見つめ直す試みです。舞踊は常に現在形でしか存在できません。その一瞬に、どれほどの記憶と祈りを宿すことができるのか。私たちはその問いを抱え、劇場に立ちます。

金森穰演出振付による最新作は、新潟が生んだ作家・坂口安吾の短編集から導かれた『私は海をだきしめていたい』です。この作品が Noism0、Noism1 の舞踊家たちの身体を通過するとき、劇場には名づけえぬ「海」が立ち現れるでしょう。私自身も一舞踊家として、その深みへ身を委ねたいと考えています。

もう一作は『春の祭典』。2020年、世界が突如として静止し、他者の身体に触れることが恐怖と隣り合わせになった時代に生まれた作品です。隔てられた日常のなかで、それでも私たちは踊り続け、最終的に互いの手を握り合いました。その行為は、祝祭である以前に、生き延びるための選択だったのだと思います。

数年を経た今、再び上演される『春の祭典』は、過去の再現ではありません。忘れてはいけないと誓ったあの日々から、果たして私たちは何を残しているのでしょうか。何事もなかったかのよう過ぎゆく日常のなかで、本改訂版では、あの時、身体に刻まれた記憶を携え、今あらためて他者と向き合うとき、どのような新たな儀式が生み出されるのかに大きな期待を寄せています。身体は嘘をつきません。孤独を抱えながら、それでも繋がろうとする生命の火花を、五感すべてで受け止めていただきたいです。

### 井関佐和子 Sawako ISEKI

舞踊家。Noism Company Niigata 国際活動部門芸術監督。

1978年高知県生まれ。3歳よりクラシックバレエを一の宮咲子に師事。16歳で渡欧。スイス・チューリッヒ国立バレエ学校を経て、ルードラ・ベジャール・ローザンヌにてモーリス・ベジャールらに師事。98年ネザールランド・ダンス・シアターⅡ（オランダ）に入団、イリ・キリアン、オハッド・ナハリン、ポール・ライトフット等の作品を踊る。01年クルベルグ・バレエ（スウェーデン）に移籍、マッツ・エック、ヨハン・インガー等の作品を踊る。04年4月Noism結成メンバーとなり、金森穰作品においては常に主要なパートを務め、日本を代表する舞踊家のひとりとして、各方面から高い評価と注目を集めている。08年よりバレエミストレス、10年よりNoism副芸術監督を務める。22年9月よりNoism Company Niigata 国際活動部門芸術監督。第38回ニムラ舞踊賞、令和2年度（第71回）芸術選奨文部科学大臣賞受賞。✂ @sawakoiseki



photo: Noriki Matsuzaki

## 新作『私は海をだきしめていたい』について

2024年春。有志で構成される《安吾の会》から、「1年半後の2026年に生誕120周年を迎える坂口安吾を題材にして、舞踊作品を創作してくれないか」との依頼を受けた。『墮落論』や『白痴』、『桜の森の満開の下』などの代表作は読んだことがあったけれど、舞踊作品にするインスピレーションが湧いたことはなかったから、「調べてみますが、確約はできません」とお答えした。

創作手順の恒例として、安吾の作品というよりは作家について調べを進めると、安吾が非常に音楽的素養の深いこと、特にフランス音楽に対する造詣が深いことを知るに至り、俄然興味が湧いてきた。なぜなら私にとっては音楽こそが創作の要であり、いかに面白い題材を見つけても、音楽が定まらなければ振付は始められないからである。

フランス音楽の中でも安吾はエリック・サティを殊の外好み、ジャン・コクトーによる『エリック・サティ』も翻訳している。翻訳の気配からは、安吾がサティの音楽というよりも人となり、その生き様、すなわちサティの精神性に惹かれていたことが窺える。そこでサティについても調べを進めたら、サティもなかなか個性の強い自覚的落伍者であったことが分かり、共鳴する二人の孤高の精神から、創作の萌芽が生まれてきた。

そうは言ってもまだ安吾が足りない。ただ安吾が愛したサティで創作するのではなく、安吾とサティが会うことでしか生まれない世界を生み出したい。そのためにはサティの音楽と共鳴／拮抗する安吾の作品が必要だ。そう思い安吾の作品を網羅的に調べていると、長編小説よりも、随筆や短編の方がサティのピアノ曲に呼応することに気付いた。

そうして選んだのが『私は海をだきしめていたい』という短編である。ある男と女の屈折した関係性。どれほど肉欲に耽っても、決して癒されない孤独な魂。渴望するように繰り返される愛憎の営みを、淡々と打ち寄せては引いていく波のように、サティのピアノ曲に乗せて舞踊化できないか。何かが成就するでも、崩壊するでもない、安吾とサティに共通する圧倒的な虚無感を、その優しさを、舞踊詩として紡げないか。そんなことを考えながら、創作を始めた。

## 『春の祭典』改訂版再演に際して

創作が図らずもコロナ禍と重なった本作には、創作時から色々と複雑な思いがあったし、今振り返っても思うところが多い。コロナ禍に加えて前年に勃発していた Noism 活動継続問題も尾を引いていたのだから、当然と言えば当然である。そうして生まれた本作は初演後にすぐ海外招聘を受けていたにもかかわらず、戦争勃発によってツアーはキャンセルされた。コロナ禍、Noism 存続禍、そして戦禍と、ありとあらゆる禍に翻弄されてきたこの作品を、今再びの Noism 存続禍に改定再演するという巡り合わせに、不思議な縁を感じずにはいられない。

今回の改定版では、出演人数も演出も削ぎ落とし、よりシンプルに、より濃密に、より身体的強度のある作品に仕上げたいと思う。そうすることで、登場人物一人ひとりが抱える恐れや不安が互いに影響し合うことで生まれる集団ヒステリー、誰もが被害者であると同時に加害者でもあるという本作の主題を、より鮮烈に表現できると考えるからである。

**金森穰 Jo KANAMORI** 演出振付家、舞踊家。Noism Company Niigata 芸術総監督。

17歳で単身渡欧、モーリス・ベジャール等に師事。ルードラ在学中から創作を始め、NDT2在籍中に20歳で演出振付家デビュー。10年間欧州の舞踊団で舞踊家、演出振付家として活躍したのち帰国。2004年4月、りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館舞踊部門芸術監督に就任し、日本初の劇場専属舞踊団 Noism を立ち上げる。サイトウ・キネン・フェスティバル松本での小澤征爾指揮によるオペラの演出振付を行う等、幅広く活動している。平成19年度芸術選奨文部科学大臣賞、平成20年度新潟日報文化賞、第60回毎日芸術賞、第42回橋秋子賞ほか受賞歴多数。令和3年紫綬褒章受章。 [www.jokanamori.com](http://www.jokanamori.com) @jokanamori



photo: Kishin Shinoyama

## ■ Profile

### Noism Company Niigata (ノイズム・カンパニー・ニイガタ)

www.noism.jp

りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館を拠点に活動する、日本初の公共劇場専属舞踊団。芸術総監督は金森穰。プロフェッショナル選抜メンバーによる Noism0 (ノイズムゼロ)、プロフェッショナルカンパニーNoism1 (ノイズムワン)、研修生カンパニーNoism2 (ノイズムツー) の3つの集団があり、国内・世界各地からオーディションで選ばれた舞踊家が新潟に移住し、年間を通して活動。2004年の設立以来、りゅーとぴあで創った作品を国内外で上演し、新潟から世界に向けてグローバルに活動(国際活動部門)を展開するとともに、市民のためのオープncラス、学校へのアウトリーチをはじめとした地域に根ざした活動(地域活動部門)を行っている。Noismの由来は「no-ism=無主義」。特定の主義を持たず、歴史上蓄積されてきた様々な身体知を用いて、あらゆるismを再検証することで、今この時代に新たな舞踊芸術を創造することを志している。

22<sup>nd</sup> (2025 / 2026) シーズンメンバー

芸術総監督 / Noism0=金森穰

国際活動部門芸術監督 / Noism0=井関佐和子

地域活動部門芸術監督 / Noism0=山田勇氣

Noism1 = 中尾洸太、庄島さくら、庄島すみれ、坪田光、糸川祐希、太田菜月、松永樹志、春木有紗

準メンバー = 江川瑞菜、与儀直希

Noism2 リハーサル監督 = 浅海侑加

Noism2 = 四位初音、沖田風子、鈴木彩水、平尾玲、大崎健太郎



金森穰



井関佐和子



山田勇氣



中尾洸太



庄島さくら



庄島すみれ



坪田光



糸川祐希



太田菜月



松永樹志



春木有紗



準メンバー  
江川瑞菜



準メンバー  
与儀直希

photo: Kishin Shinoyama (金森穰)

photo: Noriki Matsuzaki (井関佐和子・山田勇氣・Noism1)

## 新潟公演

2026年6月27日(土) 17:00、28日(日) 15:00★

7月4日(土) 15:00★、5日(日) 15:00 ※全4回

りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館〈劇場〉

★終演後アフタートークあり(約30分間)

28日(日) 登壇者：金森穰 (Noism 芸術総監督 / 演出振付家)、井関佐和子 (Noism 国際活動部門芸術監督)

4日(土) 登壇者：Noism1 メンバー

\* ご来場の皆さんからの質問にお答えします。

\* 新潟公演のチケットをお持ちの方であれば、別日程でもトークのみのご参加も可能です。

入場料(税込)：全席指定 5,500円 U25 3,000円 高校生以下 1,000円

\* 未就学児の入場はご遠慮いただいております。

\* U25は公演時25歳以下の方対象(未就学児を除く)。U25・高校生以下の方は入場時に身分証をご提示ください。

\* 開演時間を過ぎますと、演出上の都合によりご入場を制限させていただきます。

\* 託児サービス(新潟公演のみ)、車イス席、赤外線サポートサービス等の詳細は、りゅーとぴあの鑑賞サポートサービス(<https://www.ryutopia.or.jp/performance/support/>) または各劇場のHPをご確認ください。

\* 営利目的での転売を禁止します。

取扱い：りゅーとぴあ(オンライン・電話・窓口)

※2026年4月1日(水)より、営業時間10:00-17:00に変更

▶オンライン・チケット <https://piagettii.s2.e-get.jp/ryutopia/pt/> [発売初日11:00-]

▶電話 025-224-5521 (11:00-19:00 / 休館日除く) [発売初日11:00-]

▶窓口(りゅーとぴあ2階) [発売初日(会員先行・一般発売ともに)取扱いなし]

会員および一般発売初日は、インターネットと電話予約に限定させていただきます。

残席があった場合、翌営業日11:00より窓口にて取り扱います。

発売日：3月25日(水) りゅーとぴあ会員先行 3月28日(土) 一般発売

問合せ：りゅーとぴあチケット専用ダイヤル025-224-5521 (11:00-19:00 / 休館日除く)

公演詳細：<https://noism.jp/npe/iwanttobeholdingthesea/>

主催：公益財団法人新潟市芸術文化振興財団

共催：BSN新潟放送、NST新潟総合テレビ、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21(新潟公演)

製作：りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館

[この事業は新潟市からの補助金の交付を受けて実施しています]

私たちはNoism Company Niigataの活動を応援しています。



HARADA DENTAL CLINIC、atelier rinto、キザシオ、DASH SPORTS MASSAGE 他1社



Noism Company Niigata / RYUTOPIA Niigata City Performing Arts Center



## 埼玉公演

2026年7月25日(土) 15:00、26日(日) 15:00 ※全2回

彩の国さいたま芸術劇場〈大ホール〉

入場料(税込): 全席指定 6,000円 U25 3,000円

\*未就学児の入場はご遠慮いただいております。

\*サイドバルコニー、2階席の一部は舞台の一部が見えづらいお席です。

\*U25は公演時25歳以下の方対象(未就学児を除く)。

U25の方は入場時に身分証をご提示ください。

\*車椅子でのご来場の方は購入時にSAFチケットセンターにお問い合わせください。

\*本公演での託児サービスはございません。

取扱い: 彩の国さいたま芸術劇場(オンライン・電話・窓口) ※埼玉公演のみ

▶SAFオンラインチケット <https://www.saf.or.jp/t/> [発売初日 10:00-]

▶SAFチケットセンター 0570-064-939 (10:00-18:00 / 劇場休館日除く)

▶窓口 彩の国さいたま芸術劇場 (10:00-18:00 / 休館日除く)

埼玉会館 (10:00-18:00 / 休館日除く)

りゅーとぴあ(オンライン・電話・窓口)

※2026年4月1日(水)より、営業時間 10:00-17:00 に変更

▶オンライン・チケット <https://piagettii.s2.e-get.jp/ryutopia/pt/> [発売初日 11:00-]

▶電話 025-224-5521 (11:00-19:00 / 休館日除く) [発売初日 11:00-]

▶窓口(りゅーとぴあ2階) [発売初日取扱いなし]

一般発売初日は、インターネットと電話予約に限定させていただきます。

残席があった場合、翌営業日 11:00 より窓口にて取り扱います。

発売日: 4月12日(日) SAFメンバーズ先行 4月19日(日) 一般発売

※埼玉公演のりゅーとぴあ取扱い分の発売は、りゅーとぴあ会員・一般共に4月19日(日)

問合せ: SAFチケットセンター0570-064-939 (10:00-18:00 / 劇場休館日除く)

主催: 公益財団法人新潟市芸術文化振興財団

共催: 公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団(埼玉公演)

製作: りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館

[この事業は新潟市からの補助金の交付を受けて実施しています]

## 『私は海をだきしめていたい』公演関連企画

---

### ○坂口安吾 街歩き

坂口安吾の長男で写真家の坂口綱男氏の案内で、新潟市内の安吾ゆかりの地をめぐる街歩きを開催します。

日程：6月27日（土）

10:00 ゆいぽーと集合

※街歩きは、約1時間半を予定しています。

参加費：500円



撮影：林忠彦

資料提供：新潟市「安吾 風の館」事業室



資料提供：新潟市「安吾 風の館」事業室